

屋根付多目的グラウンド

8月中にも最終案策定へ

「屋根付多目的グラウンド」は天候に左右されずに利用でき、幅広い活動の場を私たちに提供してくれます。誘致運動が実を結んで、大館に建設されることが決まり、建設候補地の健康ひろば（上代野・営林署旧苗畑跡地）では、いよいよ地質調査が始まっています。

平成三年二月に発表された秋田県新総合発展計画へ盛り込まれた「屋根付多目的グラウンド（ドーム施設）」その誘致に向け、市では同年十一月に比内町・田代町と「大館広域圏屋根付多目的グ

ラウンド建設誘致促進期成同盟会」を設置し、陳情、誘致運動を展開してきました。五年三月の県定例会で大館市へのドーム施設建設が正式に決定。また、五年度からは小



健康ひろばではボーリングによる地質調査がスタート

坂町も同盟会に加入し、一市三町の有識者による建設検討委員会も設置され、利活用について地元の意向を県へ示すための素案作りが進められてきました。委員会では、これまで話し合

った内容を協議し、八月十日に事務局がとりまとめて同盟会会長へ答申したところです。

答申書には、ドームの規模を硬式野球、サッカー、ラグビーの公式試合ができ、バレーやバスケットなどもできる、内径百五十～百六十メートル、高さ五十メートル以上、収容人員五千人（固定席三千、半分は可動とし、スポーツのほかにもコンサートやフェスティバルなど、さまざまなイベントに利用できること、また周辺整備では、接続道路や駐車場（千五百台収容）の整備、レストランや植物園、合宿所を設置することなどが盛り込まれました。

北東北の中核施設として

一方、建設主体の県では「大館地区多目的ドーム基本構想検



県の基本構想検討委員会が健康ひろばを視察

討委員会（委員長・原廣司東京大学生産技術研究所教授）の初会合を六月十四日に大館市で開催し、建設候補地の健康ひろばを視察後、県の基本的考えを示しました。七月二十七日には秋田市で第二回目を開催。八月の中にも、施設内容の骨子などの最終案が策定されることになっています。

スポーツ・レクリエーションの場、文化・産業などの多彩なイベントの場として、そして新たな観光施設として、北東北の中核となる大館圏域の発展を、一層促進させてくれるものと大きな期待が寄せられているドーム施設。順調に進めば、六年度に実施設計が行われ、七年度は建設工事に着手。大館能代空港が開港する前には完成するものと予想されます。

市長リポート



No.50

全国規模の大会を大館で

全国公立幼稚園PTA全国大会が、七月二十九日、三十日の両日にわたって大館市で開催されました。

全国大会の会場は各県持ち回り、これまで主に県庁所在地など大都市で開催されてきました。秋田県での開催は二回目、本市では初めての全国規模の大会開催となりました。

現在、市では「大館能代空港」や「大館短大」、「屋根付多目的グラウンド（ドーム施設）」の誘致など、秋田県第二の都市としてさまざまな事業に取り組んでいるところです。将来はドームを会場に、大会や会議などを開催できるようにも考えています。

今後も機会をとらえて、全国規模の大会や会議、イベントなどを受け入れていきたいと思っておりますし、ぜひ、大館市で開催したいと言ってもらえるような街づくりを、皆さんと一緒に進めていきたいと思っています。

小畑 元